

平成 26 年 度 一 般 採 用 試 験 後 期

国 語 試 験 問 題

(理 工 学 専 攻)

(注 意)

1. 解答用紙の注意事項を確認のうえ、例にならって氏名及び受験番号を解答用紙に必ず記入及びマークすること。

例 【氏名】 防大 渚 【受験番号】 神奈川県W1234 の場合

※氏名及び受験番号の記入について

	姓	名
フリガナ	ボウダイ	ナギサ
漢 字	防大	渚

	志願地本名	専攻区分	番 号
受験番号	神奈川県	後理	W1234

女子受験者について、番号のWはマークしなくてよい。

※受験番号等のマークについて

志 願 地 本 名	札幌	01	福島	10
	函館	02	茨城	11
	旭川	03	栃木	12
	帯広	04	群馬	13
	青森	05	埼玉	14
	岩手	06	千葉	15
	宮城	07	東京	16
	秋田	08	神奈川	●
	山形	09	新潟	18

専攻区分	
人社	1
理工	●
性 別	
男	1
女	●

番 号			
0	0	0	0
●	1	1	1
2	●	2	2
3	3	●	3
4	4	4	●
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9

2. 試験時間中は、すべて試験係官の指示に従うこと。

3. 解答方法は、択一式であり、設問ごとの指示に従い、解答用紙の解答欄にマークすること。

例えば、**1**と表示のある問題に対して(3)と解答する場合は、次の例のように**1**の解答欄の**3**にマークすること。

解 答 マ ー ク 欄						
例	1	1	2	●	4	5

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

(今福龍太氏の『身体としての書物』による)

* (注) ステファヌ・マラルメ——十九世紀のフランスの詩人。象徴主義の代表的存在。

仮綴本——製本様式の一つで、この場合は特にフランス装をさす。綴じただけで裁断しておらず、読者はペーパーナイフでページごとに切って読んだ。本来は、愛書家が自分の好みに合わせて装丁するためのもの。

ジェイムズ・ジョイス——アイルランド出身の小説家。二十世紀の小説革新に大きな影響を与えた。

ウィリアム・フォークナー——アメリカの小説家。一九四九年、ノーベル文学賞を受賞。

ヴァルター・ベンヤミン——二十世紀を代表するドイツのユダヤ系思想家。

ウラジーミル・ナボコフ——ロシア貴族出身の作家。革命に際してアメリカに亡命。

ロバート・フランク——スイス生まれのアメリカの写真家。

ジャン・リュック・ゴダール——フランスの映画監督。ヌーベルバーグの旗手。

ジョアン・ミロ——スペインの画家。シュルレアリスムの画風で有名。

シモーヌ・ヴェイユ——フランスのユダヤ系哲学者。

以下にテキストとして再現された講義——本文全体が東京外国語大学における講義をもと

にしたものである。

1

傍線部(1)～(5)までの漢字の読みとして、誤っているものを次から選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 豊饒——ホウキョウ
- (2) 凌駕——リョウガ
- (3) 末裔——マツエイ
- (4) 智慧——チエ
- (5) 憧憬——シヨウケイ

2

空欄 A に入る言葉として、本文の論旨に照らして、最も適当なもの

を次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 世界において、すべてが書物として立ちあがるために存在する
- (2) 書物において、すべては、世界へと生成するために存在する
- (3) 世界において、すべての書物は個々人に帰着するために存在する
- (4) 世界は、すべての書物のなかで生成されるために存在する
- (5) 書物から夢想される世界は、すべてを媒介するために存在する

3

筆者はヴェイユの書きつけに対して、傍線部(a)へけれども私は、これを書物について語られた至高のことばとして受けとめている」と述べているが、なぜか。それについて説明したものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 世界のすべてが書物に帰着するならば、神の創造物も「愛する存在」としての書物に帰着するであろうし、また、ヴェイユも「モノ」であるがゆえの書物の限界を示唆しているから。
- (2) 書物は物質的なもので、決して永遠ではないがゆえに豊饒な世界を生成する。ヴェイユの「愛する存在」はまさにそうした限りあるものとしての書物の特性と共通するものであるから。
- (3) 書物は永遠ではないが、それに託されたアイデアは永遠であり、万物に共通する価値を有する。ヴェイユはこうした書物の特性を「愛する存在」ということばであらわしているから。
- (4) 電子テクノロジーの誕生で、書物の存在そのものが自明でなくなりつつある現在において、書物のプラス面、マイナス面が明らかとなり、それがヴェイユの「愛する存在」と共通性をもつから。
- (5) ヴェイユの「愛する存在」は永遠ではないがゆえに、電子テクノロジーによる新しいテキスト空間によって消え去ってしまうかもしれない書物と本質的な共通点をもつから。

4

本文の論旨に照らして、最も不適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 我々の身体は書物と世界との間に存在するので、書物が世界にならんとすることを考える際、我々の身体との関係について問うべきであり、それは書物の身体性を問う新しい試みでもある。
- (2) 書物は、紙でできていようと、木、石、竹、皮革でできていようと、そこに託されてきたアイデアに変化はないが、デジタルメディアの登場によって、歴史としての書物が変化のみならず消滅する可能性も出てきた。
- (3) 書物は究極的に、内容がなかりと文字がなかりと、物質としてのそれ自体に意義があるといえるが、現在の書物の抱える問題の核心は、その物質としての書物が消えようとしている点にある。
- (4) 古代アステカの民にあって人間の生命時間と歴史的時間を同時に示すものとしてアモシュトリは存在していたが、そこに託されたアイデアは西欧世界における「書物」と本質的に通じるものであった。
- (5) 『ユリシーズ』にしても『一九〇〇年頃のベルリンの幼年時代』にしても、そこに描かれた景観がそれのみで終わらず、世界への扉として機能しているという点で、書物の力を実感させるに十分である。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください。

掲載
この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
することができませんので、ご了承ください。

掲載
この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
することができませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

(谷口雅子氏の『スポーツする身体とジェンダー』による)

* (注) 性同一性障害——性をめぐる自己意識と自分の生物学的性別が一致しないために、与えられた生物学的性別に対して違和感を持ち続ける障害。

ドラスティックに——徹底的に。過激に。

5

傍線部の片仮名(1)～(5)にあてはまる漢字として、本文の論旨に照らして、誤っているものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 堅持
- (2) 垣間
- (3) 擁護
- (4) 揶揄
- (5) 撤廃

6

本文中で筆者は、ジェンダーを考える際に「スポーツ」は最も興味深い場であると述べているが、筆者がそう考える理由として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 性的不平等を越えて自己の主体性を保つために、女性アスリートの多くは「女性らしさ」を演出しようとするから。
- (2) 身体を駆使して行うスポーツこそ、生きた身体感覚や男女の性差への反応をダイレクトに具現化する場であるから。
- (3) 男女の区別が一目瞭然であるスポーツにおいては、男性の身体的優位という事実が必然的に証明されてしまうから。
- (4) ジェンダーをめぐる意識の壁を越え、抑圧される女性の身体を救済する可能性がスポーツの中に存在しているから。
- (5) 「ジェンダー最後の砦」としてのスポーツは、男性中心的で抑圧的な権力性に対抗するための根拠になり得るから。

傍線部 (b) の「身体が織り成す優劣を超えた関係性」に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も不適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 旧来のジェンダー論の射程ではうまく捉えられないところの、「いま、ここ」を生きる上で女性が感じる日常の身体感覚に根差した、男女の「らしさ」を肯定する相互作用的な関係性。
- (2) 性別役割分担には否定的であるが「男らしさ」「女らしさ」は肯定的に許容するという、一見すると矛盾した反応を生み出すところの、男女の身体感覚レベルにおける現実的な関係性。
- (3) 男女の間で無意識的になされる両者の区別やその抑圧／被抑圧の構図を解消して、男女それぞれの性の固有性をお互いが尊重するという、社会的な境界を超越した「フリー」な関係性。
- (4) 自らが女であることを女性が心地よく感じるといふ、構築主義的ジェンダー論の立場から見れば否定されてしまうような身体感覚を無視しては理解し得ない、男女間の心情的な関係性。
- (5) 個は孤立した存在ではないという近代の主体性のあり方を反映しているがゆえに、男⇨能動的／女⇨受動的という旧来の枠組みを相対化する可能性を孕んだ、錯綜した男女間の関係性。

本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 構築主義的なジェンダー論において、その送り手側の意図と受け手の女性たちとの間にはしばしば齟齬が見られるが、その背景には、旧来の制度を打破しようと試行錯誤を重ねた女性解放の歴史に対する現代女性の無自覚が作用している。
- (2) 「ジェンダーフリー」をめぐる論争は、性別役割分担の解消によって女性が社会の中で主体的に活躍し、中心的役割を担うことへの反動として起きたもので、そこには従来からの二項対立的な思考の限界が顕在化していると筆者は述べている。
- (3) 「男らしさ」は、社会秩序を維持する上で暗黙の内に了解された戦略的概念であり、それは女性に「女らしさ」という枠組みを強要する一方で、男性には自己の優位性を保証された心地よさと主体的な行為の自由をもたらしことになった。
- (4) 「ジェンダー」概念の導入は、男女の固定的な区分意識を克服する契機になったが、性同一性障害を抱える人々の存在は、その概念が自らの論拠としている生物学的性別を無効化し、構築的な差異としての性の本質を揺るがすことになった。
- (5) 筆者は、バックラッシュ派の観点は、社会的区分の抑圧を感じ、そこで自らの新たな権利の獲得を目指した人々の欲求に対して鈍感であるが、人間の身体のある方に対し無自覚なのは本質主義的な見方のみの陥穽ではないと主張している。